【中学生派遣交流事業を通して学んだこと】

渡辺裕真

私は、中学生派遣交流事業を通して、日本とスイスの文化や自然の違いについて学びました。また、自分の気持ちをはっきり伝えることの大切さにも気づきました。

まず、食文化の違いについてです。日本では、ご飯や味噌汁を組み合わせた和食がよく見られます。一方、スイスではパンやチーズ、じゃがいもなどを使った料理が多く見られました。ホームステイ先では、ハンバーガーやチーズフォンデュを食べました。どちらもとてもおいしく、現地の食事を通して日本との違いを感じました。

次に、景色の違いについてです。日本とスイスはどちらも自然が豊かな国ですが、景色には違いがありました。ホームステイ先のランダ村では、迫力のある山々や広い草原、木造のおしゃれな建物など、日本とは違う景色を楽しむことができました。自然だけでなく、建物や町の雰囲気にも違いがあることを知りました。

そして、ホームステイで一番大切だと感じたのは、自分の気持ちをはっきり伝えることです。最初は丁寧な英文を考えて話そうとしましたが、うまく伝わりませんでした。しかし、簡単な言葉でも、はっきり伝える方が相手に理解してもらえると気づきました。また、日本では周りの空気を読んで発言を控えることがありますが、スイスでは自分の気持ちや考えをわかりやすく伝える人が多いと感じました。日本との違いに驚くとともに、自分もそうできるようになりたいと思いました。

帰国後もホストファミリーと連絡を取り合い、家族同士でも手紙や写真を送り合うなど、交流が続いています。研修が終わった今でもつながっていられることがうれしく、これからも交流を続けていきたいです。

今回の経験を通して、異なる文化を知る楽しさや、自分から行動することの大切さを学びました。これからは相手の文化や考え方を尊重しながら、自分の気持ちもきちんと伝え、今回の経験を学校生活や人との交流に生かしていきたいです。